

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 10 月 24 日
事業所名	グループホーム 千姫 1階
事業所番号	2392100042
記入者名	職名 氏名 森 信子
連絡先電話番号	0564-28-6200

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	翔友会としての理念は統一している。自己決定を尊重すること、自立支援を図り、その人らしい生活になるよう行っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容を把握している職員は少ないが、理念に沿った取り組みはされている。(家族様に日常の事を伝えたりしている)	
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族様、地域の方には、理念を直接伝えてはいないが、理念に沿った取り組みは家族様の面会時や、運営推進会議等で伝えている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣の畑の持ち主や、近所の方に柿や花をいただいたりと、徐々に付き合いが広まっている。	
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の子供会のお祭りでは、ホームの駐車場に御神輿に入ってもらったり、回覧板を廻していただいたり廃品回収に協力している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>災害時等、避難場所としての提供をしていきたい。応急処置講習を実施したい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価で出た事を評価し、これからの課題とする。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>地域と交流する場を徐々に増やしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月、介護相談員の方2名で来てみえる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が成年後見人を理解し、入居希望で必要な方には説明を行った。数人の職員は研修にて学んだ。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学ぶ機会は持ってないが、常に拘束防止は全職員に伝え、防止に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		一人ひとりの意見を大切にしていけるためにも、一人ひとりの職員の意見を聞く機会を作っていきたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全体の異動はまだないため、わからない。施設内では、全職員が1.2F共にできるよう配慮し、影響を最小限にしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が設けられ、職員は参加している。その他の研修については、一部の職員のみ参加になっている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市内のグループホームが集まる小部に管理者または、職員が参加し、意見の交換を行ったり、問題点を他のグループホームの方に相談したりできる場に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上でのストレスなどの場合は、カンファレンスなどで出してもらい、解決方法を見つけるようにしている。		一人一人と話し、少しでもストレスを除いていけるようにしていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務の中でできない事は講習を行い、その後できるようになるとその方にできるようになったことを褒め伝える。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者様からの訴え時は、傾聴し、共感を持ち、信頼関係を築いていけるよう努めている。新規入居者の方には、特に力を入れ、普段より話す、聴く努力は行っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の方には、なるべく施設に足を運んでいただき、情報を伝えたり、聴くようにしている。その場で解決できることは家族の方と話し合いをもち、そうでない場合は、職員間で話し合い、後日連絡を行っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前には、施設見学をしていただき、家族の要望を聞き、直ぐに取り組めることであれば実行していくが、カンファレンスなどで支援を話し合い、どのサービスが有効なのかを考えて実行している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前は、日帰りを利用していただき、家族の方も大丈夫だと見極めた上で入居された方がみえる。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯、食事準備、掃除等を一緒に行い、頼り、頼られながら学び、支えあって過ごしている。入居者様同士の中での役割もできつつある。</p>	<p>一定の入居者の方ばかりでなく、他の方のできることを見極め、一緒に行っていただけるようになるとよいと思っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に面会の必要さを常に伝えてあり、協力的である。面会時には、話をしたり、必要な情報は電話にて伝えている。		これからも継続していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族を交えた交流会を2月の開所より3～4回行って、一緒にお手伝いを行っていただき、楽しむ機会を作っている。(総勢60名位になる)		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会なども気軽に来ていただき、居室にてゆっくり過ごしていただいている。友人と外出、外食される方もみえる。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室に閉じこもることのないよう声かけし、話し合える場を整えている。は全体で行っており、孤立は少ない。全体のかかわり合いを深めている。		トラブルが起きないようにしているが、見えない所で起きてしまう事もあるので、今後、もっと気をつけていきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された家族の方より連絡は多い。相談、悩み事などがある時などは、話を聞き、アドバイスできるところは話をしている。退去後の再入居の例はまだない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の方に今までの生活のことを聞いたり、今の状態を見ながら本人様の意向をできるだけ尊重できるようにしている。無理な等々の参加はせずに、希望することを行っていただいている。できるだけ意向に沿えるよう努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面談の際、家族より今までの生活習慣等の聞き取りを行い、今までの暮らしの把握を行っている。状況表にまとめ、ケース記録に入れ込み、職員が把握できるようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の過ごし方を尊重し、出来る事、出来ないことの把握には努めている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の方には、面会時や電話にて意向を聞き、ケアプランを作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>連絡ノートや、カンファレンス等での話し合いはできているが、その時すぐにプラン作成ができない。</p>	<p>対応できない変化が生じた場合など、カンファレンス、連絡ノートのみで実施するのではなく、プランにあげて行っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録として記入している。情報の共有には連絡ノートを活用している。申し送りにて職員は情報を共有している。		共有した事をケアプランに取り入れていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況よっての対応は、カンファレンスを開き、その後より開始している。家族の方などの要望に対しても同様、出来る事は実行している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム全体でボランティアの方と一緒にゆを楽しんだり、民生委員の方には近隣協力者として火災時などの時に支援していただけるようになっている。避難訓練では、消防の方を呼び、消防活動も一緒に行った。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用をするための支援は行っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括センターの方は運営推進会議に参加していただき、その中でホームの活動を知っていただいたり、入居待ち状況等のお知らせを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医があり、月二回の往診に来てくださっている。老人健診の配慮や、予防接種も行っていただき、調子の悪い方がみえる時など状況の確認の電話も先生からくださる。協力医以外を受診されている方は、家族の方で受診に連れて行ってくださる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営者が認知症に詳しい医師であるため、相談をしたり、協力医の往診時、管理者および看護師が付き、報告や相談を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中、週3～4日看護師が勤務し、入居者様の健康管理を行っている。夜勤帯にも看護師が行う日もあり、状況の把握、管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院された場合、訪問したり、病院関係者と看護サマリー等を通し、情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、面会、電話で報告をしている。終末期はまだ事例はないが、実践していくことは伝えてある。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対し、ケアできる事、出来ないことは家族の方に伝えているが、重度、終末期の方がいないため、まだ行ってない。		終末期ケアの勉強会や、マニュアル作りなどを行い、準備していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりを尊重し、適切な言葉かけを行っている。信頼関係ができた上で、言葉を選び接するようにしている。個人情報の取り扱いは、慎重に扱っている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人の考えや行動は、出来る限り行っていただくようにし、外出したい等の訴え時は、止める事をしないようにし、散歩等に行ってもらっている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	食事、レは時間を決めているが、無理に参加はしてもらわず、自由に過ごしていただいている。	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	女性の方は、月一回、化粧療法(ボラティア)にてマニキュアや化粧を行ったりして喜んでいただいている。理容については、出張でみえるため、男性も髭剃り、カットで利用される。自分で希望の方は、望む店へ行ってもらっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はできたものが厨房より届く為、盛り付け、セッティング、食器を洗う、片付ける等と一緒にさせていただいている。苦手なものがある方は、別メニューにするなど配慮を行い、食事も楽しみの一つと思えるよう努めている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方はみえないが、お酒は家族の方より持ち込みで、食事の際や、食後で晩酌をされている。本人様で買い物に行った時等のおやつは、制限のある方以外は管理は行っておらず、居室にて自由にされている。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴え時は、トイレ誘導、定期的声かけも行っている。体調により、リハビリパンツでの対応の声かけを行ったり、その時の状況で対応を行っている。家族様と話し合いを行い、入居前より一日中リハビリパンツで過ごして見えた方が、就寝以外は布パンツで過ごせるようになった例もある。		リハビリパンツ使用の方で、布パンツへ変えることができそうな方は変えられるようにしていきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助の必要な方は、職員で声かけを行っているが、毎日入りたい、夕方入りたい等の訴え時は、希望に合わせて入浴していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全体的では、消灯時間は決まっているが、その後も起きて見える方はフロアでテレビを見たりして過ごされ、そのままフロアで寝て見える方もいる。居室内でも自由に過ごしていただいている。寝たい時に寝ていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割としては、家事のお手伝いや、花の水やりを行っていただいている。外出、散歩、ゆなどの行事で気晴らしになるよう支援し、心がけている。		役割としては、一部の方で行われていることが多いため、他の方でできる事を探し、役割として行っていただけるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所にて預かっているが、一部の入居者様で、自分でお金を管理してみえる方は、買い物に出かけたりしてみえる。預かってみえる方でも、訴え時には渡し、買い物に行っている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気の合う人達で散歩に行かれたり、買い物に出たり等訴え時は自由に行っている。付き添いの必要な方は、職員一緒に出かける事もある。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、外食は行っている。他、日帰り旅行を実施したり、季節で出かけるとよい所なども、その時に出かけ、季節を感じていただけるよう行っている。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクの中で家族に手紙を書いたり、個人的に手紙を書いてみえる方もいる。家族より、電話の了承がある方は、自由にかけられている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はないので、いつでも訪問していただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。話し合いの中で拘束になるのか？ならないのか？などは、話を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日勤帯は鍵をかけない状態で取り組んでいるが、夕方職員の数が少なくなる時間帯は、家族の了承のもと、鍵をかける日もある。鍵をかけないため、自由に出入りできている。居室の閉じ込めはない。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	生活の中で、ワ、食事、おやつなどで所在を確認している。無届外出をされる方に対しては、もう少し小まめに行っている。夜間帯は、3時間おきの巡視を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分で管理できる方は、管理していただいている。危険を感じた事は、ヒヤリハットとして出し、気をつけるよう取り組みながら情報の把握を行っている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットの記入、マニュアル作成、その場での対応、転倒の恐れがある方などは、日頃より注意を図り、家族の方にもその状況を事前に知らせている。食事中は必ず職員が付き、薬は手渡しを徹底し、火災等については防災訓練を実施した。		一つ一つのマニュアルを職員全員が把握できるようにしていきたい。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作成してあるが、訓練としては行っていない。		急変や事故に備え、心肺蘇生実施する予定。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練では、施設内にて消防署の方と行った。災害時は、近隣協力者として2名、お願いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況の変化があれば事前に家族の方へ連絡をし、話をしている。拘束は行わないが、事故の恐れがあることを伝え、理解していただいている。面会時には、日頃の状況を伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	排便、排尿、血圧、体温などをチェックシートに記録をし、毎日のバイタルを通し、個々の表情を伺う時間を貴重とし、異変の早期発見につなげている。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状は、ケース記録の中に入れており、直ぐに見れる状態にはなっている。		すべての職員が服薬についての目的等を知るように努めていきたい。
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないようチェック表を作り、予防に努めている。朝、昼二回の体操を行い、体を動かしている。便秘が続いている方は、チェックリストで見て、看護師の指示を仰ぐ。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員ではないが、毎食後、口腔ケアを行っている。要介護者は、夕食後、必ず口腔ケアを行っている。入れ歯は回収し、毎日ポリドント洗浄を行っている。残歯のケアも行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて水分摂取量、食事摂取量の記入をし、いつでも確認が行えるようになっており、それをもとに申し送りも進められて健康管理を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医に、往診時インフルエンザの予防接種を行っていただいている。面会者は、玄関に入ったところにアルコール消毒と、マスクをしていただくよう、声かけを行っている。		感染症に関する大きなマニュアル(感染症の種類等)はあるが、話し合い等は行えていない所が多いため、作成していきたい。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水切りのカゴや、流し台の排水溝のアミカゴや、調理器具等は漬け置き消毒を行っている。食事は、冷蔵保存して、提供する前に温めるようにしている。その日に食べなかったものは、処分するようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植えたり、プランターで野菜作りを行ったりしている。日中は玄関のかぎはかけず、いつでも出入りができるようになっている。門は、夜間のみ閉めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく汚れ等がないよう、いつでもきれいに掃除し、きれいを保つようにしている。トイレは、1日3~4回行っている。不快無く生活できる場を提供している。廊下には、行事の写真が飾っており、フロアには季節ごとで手作りカレンダーが飾られている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、一人掛けのソファでテレビを見たり、新聞を読んだり、話をしたりと思い思いの過ごし方をされている。2階には入居者同士が過ごせるよう、テーブル、椅子が別に用意してある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日、朝、昼2回体操(ラジオ体操第1、第2、さわやか体操(独自2曲))を行っている。
- ・月一回、体調不良、拒否者以外は全員外食に行っている。
- ・日中(9時~18時頃)は、玄関の鍵はかけない。
- ・自分で行ける方は、買い物、散歩は自由に行ってもらっている。